



日本の「宝島」あまくさ

ほんど

まちづくり協議会だより

持続可能なまちづくり ～人が住み、しっかり学べる天草～

新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、収束の兆しさ見えません。いろいろところで深刻な影響が出ています。そのようなコロナ禍の中、7月4日に豪雨に見舞われ、甚大な被害が発生しました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害を受けられた皆様にお見舞いを申し上げます。一日も早く平穏な日々が戻ることをお祈りいたします。

数十年に一度と言われる災害が、近年、毎年どこかで発生しています。行政でも最大限の努力がなされていますが限度があります。これまでの経験から自分は大丈夫だと考えず「自分も被災する可能性がある」と認識し、命を守る行動を普段から考えておくべきだと思います。自宅周辺の危険箇所などを調べ、安全な避難経路を確認して、それぞれのご家庭で避難計画「マイ・タイムライン」を作り早めの避難をしたいものです。

本渡まちづくり協議会では、数人の委員が交代され、新しい体制でスタートしました。コロナの影響でどれだけの活動ができるかわかりませんが、できる限りの活動をしてまいりたいと思っています。「未来の大人応援プロジェクト」もコロナの影響で、5月まで活動休止を余儀なくされました。7月20日に岸川先生と天草拓心高校に出向き、SBP部のこれからの活動について話し合いました。今年の全国高校生SPB交流フェアはオンラインでの発表会になりました。全国の高校生と直接会って交流することはできませんでしたが、8月1～2日、天草拓心高校を含め全国の22校が参加し、発表会がありました。天草拓心高校は、これから実践する2つのプロジェクトに関する発表を行い、審査委員から、わかりやすくとても素晴らしい発表であったとの評価をうけ特別賞を戴きました。また、他校の発表を見て、学び、最後にオンラインで交流することができました。秋頃までには皆様に成果をお披露目できるのではと思っています。

今日の状況が続くならば、来年の東京オリンピック開催も危ぶまれます。「人からうつされない」ではなく、自分も感染者かもしれないと仮定して「人にうつさない」行動が求められています。そうすることによって早く収束に向かうのではないのでしょうか。

100年続くふるさとをつくる、100年地域の暮らしが循環していくには何が必要か、それは島(地域)にひとがいるということ。そのためには、新しい持続可能な地域社会の構築が必要であり、そのことが地域活性化の目的でもあります。今後100年続くために必要なものは教育です。地域とともにある学校づくり、未来の大人応援プロジェクトもその一つだと考えています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

コロナの一日も早い収束を祈りながら。
流れる水の如く流されるのはとても容易く、逆らうことは困難を極める

※「マイ・タイムライン」台風の場合、発生から災害発生までを具体的にイメージし、備えを明確にする。



本渡まちづくり協議会
会長 中川竹治

Vol. 25

令和2(2020)年10月1日号

目次

- 会長あいさつ……………P1
- 令和2年度事業計画・
収支予算など……………P2～3
- 未来の大人応援プロジェクト
(SBP)事業……………P4～5
- 宮地岳地区振興会の取組……………P6
- 佐伊津地区振興会の取組……………P6
- ふるさと応援寄附金の取組……………P7
- 地域おこし協力隊の活動報告……………P7
- 天草拓心高校
SBP部の紹介など……………P8

ほんどのいま

令和2年9月1日現在
(令和2.3.1との比較)

【本渡南】	男……………3,802人(-11) 女……………4,403人(-32) 計……………8,205人(-43) 世帯数……………3,790(+18) 高齢化率……………33.3%
【本渡北】	男……………5,469人(-31) 女……………6,011人(+5) 計……………11,480人(-26) 世帯数……………5,084(+64) 高齢化率……………23.8%
【亀場】	男……………2,067人(+18) 女……………2,307人(-19) 計……………4,374人(-1) 世帯数……………1,822(+8) 高齢化率……………25.0%
【栢宇土】	男……………292人(-7) 女……………310人(-10) 計……………602人(-17) 世帯数……………267(+1) 高齢化率……………47.7%
【志柿】	男……………1,262人(-16) 女……………1,485人(-3) 計……………2,747人(-19) 世帯数……………1,217(+3) 高齢化率……………35.7%
【下浦】	男……………785人(-9) 女……………907人(-16) 計……………1,692人(-25) 世帯数……………765(-1) 高齢化率……………44.8%
【桶浦】	男……………1,139人(-2) 女……………1,241人(-16) 計……………2,380人(-18) 世帯数……………1,013(+9) 高齢化率……………38.3%
【本町】	男……………824人(-7) 女……………874人(-9) 計……………1,698人(-16) 世帯数……………833(-5) 高齢化率……………40.6%
【佐伊津】	男……………1,534人(+3) 女……………1,673人(-4) 計……………3,207人(-1) 世帯数……………1,440(+19) 高齢化率……………36.2%
【宮地岳】	男……………239人(-12) 女……………245人(-7) 計……………484人(-19) 世帯数……………238(-2) 高齢化率……………52.7%
【合計】	男……………17,413人(-74) 女……………19,456人(-111) 計……………36,869人(-185) 世帯数……………16,469(+114) 高齢化率……………31.5%

天草拓心高校SBP部の活動紹介

天草拓心高校SBP部です。

昨年の4月から天草拓心SBPとして天草の活性化に向け、16名で活動に取り組んでいます。現在は「あまりん焼き」と「防災用非常食の開発」に関するプロジェクトを進めています。

あまりん焼き



▲あまりん焼き(種型) ▲完成した焼型で試作中

「あまりん焼き(オリジナルたい焼き)」は、天草の「あま」と、海という意味の「マリン」を組み合わせて命名しました。焼型のデザインは、天草市の花の「ハマボウ」と「イルカ」をモチーフにしています。あまりん焼きをきっかけに天草のことを多くの人に知ってもらい、全国に天草の魅力を広めたいと思い取り組んでいます。焼型の製作については、愛知県でSBP活動としてオリジナルたい焼きのプロデュースを行われている高浜高校に製作を依頼し、今年焼型が完成しました。その焼型を使用し、現在試作を行っています。将来的には、あまりん焼きで得た利益を天草で行われている景観保全活動の支援に使用し、観光客を増加させていきたいと思っています。

防災用非常食

防災用非常食については、近年は地震などの災害が増えているため少しでも助けになりたい、災害でつらい時に天草の美味しいものを使った非常食を食べて元気になってほしいという思いから製作することにしました。また、この取り組みは三重県立南伊勢高校の生徒と共同で開発を進めています。

本校では、缶詰製造と食品乾燥の技術があり、それを活かして缶詰と乾燥食品の製造計画を進めました。缶詰については、本校で生産している既製品の他、新たに天草の特産品を使ったものや南伊勢とのコラボ商品を作ろうと考えています。乾燥食品については、ドライフルーツを実際に試作しました。ドライフルーツには、保存期間が格段に伸び、栄養価が高く食べやすいというメリットがあります。このことから非常食に向いていると考えました。今回、イチジクとバナナを試作でドライフルーツにしました。



▲イチジク(乾燥前) ▲イチジク(乾燥後)

今後は、防災非常食が完成したらまず南伊勢町へ少量配布し、そこで評判であれば、各自治体の防災担当課に販売をしようと考えています。そして将来的には全国での販売を促していきたいと考えています。

私たちの活動については、天草拓心高校ホームページ内SBPのコーナーで随時発信していきますので、ご覧ください。また、このプロジェクトには、多額の資金が必要です。ご協賛いただけると幸いです。



本渡まちづくり協議会委員 (敬称略)

役職	氏名	備考
会長	中川 竹治	地域づくり団体
副会長	鬼塚 清武	楠浦地区振興会長
監事	竹畑 研一	公募
〃	濱崎 又幸	公募 ※
委員	海江田雅靖	本渡南地区振興会長
〃	金澤 一紀	本渡北地区振興会長
〃	河野 昇	亀場地区振興会長
〃	平山 辰巳	杵宇土地区振興会長
〃	有江 浩三	志柿地区振興会長 ※
〃	川崎 宏	下浦地区振興会長 ※
〃	堀田 福男	本町地区振興会長 ※
〃	原田 康秀	佐伊津地区振興会長
〃	松川 莞爾	宮地岳地区振興会長
〃	寺澤 静子	文化関係
〃	原田 健二	体育関係 ※
〃	高瀧悠一郎	経済団体 ※
〃	上村 恭子	観光関係
〃	梅川 正	産業関係
〃	横田 早苗	社会福祉関係
〃	田口 珠代	子ども育成・青年団体

※は新任委員の皆さまです。

HONDOまち婚事業
 今年度から少子化対策、若者の交流機会の拡大を目指し、楠浦地区振興会と協働で取り組むことになりました。今後、身だしなみやコミュニケーション向上に向けた講座やカップリング交流会などを企画します。

※本渡まちづくり協議会についての詳細は、本会事務局(ポルト・市まちづくり支援課) ☎6661へお尋ねください。

まちづくりは人づくり！ 若者が活躍する地域に！

～令和2年度 第1回まちづくり協議会を開催～

令和2年度の事業計画・収支予算を審議

令和2年度の「第1回本渡まちづくり協議会」を6月26日、天草国際交流会館ポルトで開催しました。会議には、委員など24人が出席。令和元年度の事業実績・収支決算・監査報告や、令和2年度の事業計画・収支予算などについて慎重に審議され、いずれも原案のとおり承認されました。また、本年度は任期(2年)満了に伴う役員改選が行われ、会長に中川竹治氏(再任)、副会長に鬼塚清武氏(再任)、監事に竹畑研一氏(再任)と濱崎又幸氏(新任)が選任されました。

本会の「まちづくりは人づくり」という基本理念のもと、今年度も地域リーダーや担い手の育成を中心とした事業を展開することとなりました。「まちづくり人材育成」「まちづくり研修」「協議会だより発行」未来の大人応援プロジェクト(SBP)事業などを継続して実施し、今年度は新たに「HONDOまち婚」にも取り組みます。各事業の情報は、本紙や各地区振興会だよりなどでお知らせいたします。

各事業の紹介

まちづくり人材育成事業
 まちづくり人材育成事業は、まちづくりを推進する人材の育成を目的として研修を行うものです。平成30年度に実施した人材育成事業を踏まえ、各地域で意欲のある方を外部機関へ積極的に派遣し、実践的な研修を受講してもらいます。

まちづくり研修

まちづくり研修は、地域の特色を活かした取り組みを展開している団体や地域などを訪問し、それらの取り組みについて学び、意見を交換することで、気づきや発見を得て、まちづくりの参考としていただくことを目的に行う事業です。

今年度は、本会委員を対象として、まちづくりの先進地を訪問する研修を実施いたします。

協議会だより発行

協議会だよりは、年2回本渡地域にお住まいの皆さんに配布しています。まちづくりに関する情報を、分かりやすくお伝えできる誌面にしたいと思っております。ご意見やご要望などありましたら、本会事務局(ポルト・市まちづくり支援課)または各地区コミュニティセンターへお知らせください。



▲協議会だより Vol.25

未来の大人応援プロジェクト(SBP)事業

平成30年3月13日に開催した本渡まちづくり講演会をきっかけに天草拓心高校と本会が連携して、未来の大人応援プロジェクト(SBP)と題して地域課題の解決に向けた取り組みを進めています。現在、天草拓心高校SBP部(最終面に掲載)が中心となり、オリジナルたい焼き(あ

まりん焼き)と防災非常食の開発に向け、SBP実践校である三重県立南伊勢高校や愛知県立高浜高校などと交流しながら、試作品の研究を行い、今年度中には、お披露目できるように進めています。本会としては、今年度も引き続き、一般社団法人未来の大人応援プロジェクト代表理事の岸川政之氏とともに高校と連携して取り組んでまいります。(詳細は、4、5ページをご覧ください)

※SBP: Social Business Projectの略。地域課題をビジネスの手法を用いて解決していこうという取り組みです。

具体的には、若者(高校生)が中心となり、地元にある地域資源(人、モノ、自然、歴史、産業など)と交流し、見直し、活用して「まちづくり」や「ビジネス」を提案していく。そして、その取り組みを地域で応援し支えていこうというものです。

令和2年度 収支予算

収 入	
予算額	18,764,000円
○天草市交付金	16,833,000円
○参加者負担金	200,000円
○繰越金	230,888円
○繰入金(ふるさと応援寄付金)	1,500,000円
○雑入	112円
支 出	
予算額	18,764,000円
○運営費	305,000円
○事業費	3,410,000円
・まちづくり人材育成事業	(450,000円)
・まちづくり研修事業(委員研修)	(590,000円)
・まちづくり講演会	(170,000円)
・未来の大人応援プロジェクト(SBP)事業	(1,500,000円)
・HONDOまち婚	(200,000円)
・協議会だより発行事業	(500,000円)
○地区振興会活動費	14,885,000円
※10地区振興会の活動費	
○予備費	164,000円

令和元年度 収支決算

収 入	
決算額	17,954,545円
○天草市交付金	16,833,000円
○参加者負担金	290,000円
○繰越金	231,537円
○繰入金(ふるさと応援寄付金)	600,000円
○雑入	8円
支 出	
決算額	17,723,657円
○運営費	396,498円
○事業費	2,442,159円
・まちづくり研修事業(委員)	(411,461円)
・まちづくり研修事業(振興会職員)	(255,519円)
・まちづくり研修事業(九州かあちゃんサミット)	(94,530円)
・まちづくり講演会	(998円)
・未来の大人応援プロジェクト(SBP)事業	(1,140,365円)
・協議会だより発行事業	(539,286円)
○地区振興会活動費	14,885,000円
※10地区振興会の活動費	
○次年度への繰越金	230,888円

第5回全国高校生SBP交流フェア

学生の学生による学生のための祭典

平成30年3月に岸川政之氏の講演を聞いた天草拓心高校の生徒達で昨年SBP部を立ち上げ、現在の活動内容について、8月2日に「第5回全国高校生SBP交流フェア」で発表しました。本会もこのフェアを見学しましたので、その内容について、ご紹介いたします。

SBP交流フェアとは、全国からSBPの取り組みを行っている高校が、取り組みの紹介や開発商品の販売をしながら参加者相互の情報交換やネットワークの構築のための交流の場とするものです。また、同フェアは企画・進行・案内をSBPの取り組みを行っている高校生が担当し、地元大学生がその裏方をサポートするという、生徒や学生主体のフェアです。

昨年までは、三重県伊勢市で開催されてきましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点からオンライン方式による開催となり、参加団体は、学校や公共施設などに集まって実施されました。

8月2日には、天草拓心高校SBP部の発表もありました。「天草の魅力を全国へ」と題し、「あまりん焼き（オリジナルの焼き）」と「防災用非常食の開発」に関する発表を行いました。（プロジェクトの内容は、8ページ参照）

ポスターセッションの結果発表と講評

8月9日には、8月1日から2日にかけて行われたポスターセッションについて、結果発表と講評が行われました。結果発表については、雅（50点以上75点未満）、輝（75点以上90点未満）、極（90点以上）、3段階で実施されました。なお、今年度は、すべての団体が輝の評価となりました。審査委員からは、どの団体もレベルが高くなり、差がほとんどなかったため、オンラインセッションに進む6校の選出が困難であったとのことでした。また、コロナ禍でも活動できることではないか、このような状況だからこそできることはないかなど高校生皆さんの懸命に考え、行動している姿に感銘を受けたなどの講評がありました。

なお、天草拓心高校は、8月23日のオンラインセッションには進めなかったものの、発表については、「プレゼンター」がわかりやすかった。



▲三重県立飯南高校



▲島根県立吉賀高校



▲取り組みの説明（動画）



▲天草拓心高校発表中！



▲審査委員による結果発表と講評

最終日となる8月23日には、ポスターセッションを通して6団体による発表をオンライン上のWeb会議システムでモニター（スクリーン）でモニター（スクリーン）を使ってプレゼンテーション（10分）、審査委員による質疑（10分）を行います。

各団体とも趣向を凝らしたプレゼンテーションで、自分たちが何のためにどのような活動を行っているか、また、今後はどのような展開を考えているかをしっかりとプレゼンし、審査委員からの質疑にもしっかりと答えていました。

オンライン交流会

オンラインセッションの発表後には、希望する団体がブース（仮想の部屋）を持ち、ブースに訪れた他校の生徒や一般の方と交流します。活動をして楽しかったこと、大変だったこと、後輩の勧誘方法などの情報交換が活発に行われました。



▲天草拓心高校も他校の生徒と交流中！



▲複数の生徒で交流しているようす

結果発表・表彰

全参加団体を対象に各審査委員から贈られる特別賞、オリ



▲愛知県立高浜高校



▲静岡県私立浜松学芸高校・青森県立鯉ヶ沢高校



▲福井県立若狭高校

ラルセッションの結果を受け決定される文部科学大臣賞、三重県知事賞の発表・表彰が行われました。

文部科学大臣賞を受賞したのは、愛知県立高浜高校地域活動部SBP班の「つなげてみりん！〜Sの絆焼きで地域エネルギー〜」でした。高浜高校にSの絆焼き（たい焼き）のオリジナルデザインを発注すると、三州瓦の職人（鬼師）が立体的な形（種型）を作成して、自動車部品工場がデータ化し、金型を彫り込むという工程で製作しています。これまで、天草拓心高校の焼き型など全国各地に10台の納品実績があることに加え、プロバスケットボールチームのシーホース三河との協力した取り組み【試合会場で高校生がタツツ焼き（イメージキャラクターのたい焼き）を販売

し、その利益で子ども達を試合に招待する。チームもお返しとして、高浜市でバスケットボールの教室を開催」などが高く評価されました。

三重県知事賞を受賞したのは、静岡県私立浜松学芸高校・青森県立鯉ヶ沢高校の2校協働事業「浜松♡鯉ヶ沢 胸キュン絆プロジェクト」。第3回フェアをきっかけに交流を開始し、鯉ヶ沢で一緒に合宿（フィールドワーク）し、外部から見た価値のある風景（観光地）でなく、日常の風景（観光地）を撮影したものをデジタル化し、ポスター、カレンダーなどへ活用することで、行政の広告費用を圧縮するもので、他地域での広がりが期待されることや初めて協働でプレゼンされたことなどが評価されました。

今年度は、特別に、福井県立若狭高校の「食のまち小浜テ

イクアウトプロジェクト」に審査員特別賞が授与されました。コロナ禍で活動が制限されるなかSNSを積極的に活用し、飲食店を応援したことなどが評価されました。

第5回全国高校生SBP交流フェアに参加して

今回は、オンライン方式でしたが、見学して改めて感じている高校生の地域に対する熱い思い！各地域さまざまな課題をもっていますが、それぞれ「自分たちで地域のために何か出来ることはないか？」と考え、コロナ禍で活動が制限されるなかSNSを積極的に活用し、地域の人・企業・行政などと連携し取り組みを進めています。

天草拓心高校も2つのプロジェクトについて、発表を行



▲結果発表（特別賞）

い、百五総研賞を受賞しました。コロナ禍でも活動する他校の事例は大変参考になりました。学校、地域、行政が連携しながら、地域課題の解決、地域活性化のために改めて取り組みを進めていければと思います。

天草拓心高校は、特別賞「百五総研賞」を受賞！

天草拓心高校は、22団体の中から熊本地震や自然災害のことを考えた活動や他校との取り組みが評価され、特別賞「百五総研賞」を受賞しました。交流フェアに参加した生徒から「今後も、天草活性化のために、地域とのつながりも大切に活動を推進していきたいと思えます。私たちの活動を見守っていただいている本渡まちづくり協議会の皆様、応援ありがとうございます。ありがとうございました。」と感想を話してくれました。



▲フェアに参加した部員

宮地岳地区振興会の取組
【観光交流施設周辺活性化事業】

宮地岳町の八十八ヶ所！

宮地岳町といえは、かかしが有名ですが、来年3月にオープン予定の観光交流施設（道の駅）から400m北側に八十八ヶ所が整備されています。元々は、大正4年に四国の八十八ヶ所を模して整備されましたが、観光客など地域外からも楽しんでもらえるように、宮地岳地区振興会が令和元年度に天草市まちづくりチャレンジ支援交付金事業を活用して、遊歩道の整備、もみじの植樹、地藏前掛けの新



▲遊歩道の整備のようす

調、看板（案内・説明用）やベンチを新たに設置するとともに、通行や見晴らしに支障のある木の伐採などを行いました。今後も定期的に清掃を行うとともに、もみじの植樹を行うなどさらに景観の向上に努めていかれるとのことですので、ぜひお立ち寄り下さい。 ※詳しい場所は、宮地岳地区コミュニティセンター（☎ 280001）にお問い合わせください。



▲前掛けが新調された地藏様



▲新たに設置された案内看板



▲宮地岳地区振興会のみなさん

善意の寄附 ありがとうございます (令和2年3月～令和2年8月 本渡まちづくり協議会受領分) (敬称略)

〇ふるさと応援寄附金として

- | | | | |
|--------------|--------------|--------------|-----------------|
| 駒形 聖 (千葉県) | 小田中雅子 (群馬県) | 矢野 治 (兵庫県) | 坂田 輝久 (熊本県) |
| 佐々木由紀 (神奈川県) | 山口 佑介 (東京都) | 鯉淵千代子 (神奈川県) | メンバーズ Rei (愛知県) |
| 濱 貴世 (岐阜県) | 高橋 法明 (茨城県) | 菅沼 祥二 (埼玉県) | 金本 隆嗣 (大阪府) |
| 柏 祥徳 (岡山県) | 伴野 博之 (神奈川県) | 大橋 美知 (東京都) | 川井 敏昭 (神奈川県) |
| 加賀 匠 (神奈川県) | 中野 謙 (沖縄県) | 村田亜希子 (東京都) | 加藤 義雄 (大阪府) |
| 尾形 晴香 (鹿児島県) | | | |

※その他、47人の方にご寄附をいただきました。

「ふるさと納税」で、天草本渡のまちづくりを応援してください。応援したいまちづくり協議会または地区振興会を指定できます。

市外にお住まいのお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ご周知くださいますようよろしくお願いいたします。

地域おこし協力隊の活動

平成29年11月1日から天草市に地域おこし協力隊として着任して、間もなく3年の月日が経とうとしております。この間に私が活動してきた内容について報告いたします。



やまだ やすし
▲山田 恭史さん

1 天草51地区振興会を対象に情報発信の支援、サポート

天草市まちづくりポータルサイト「A-map」における情報発信を強化するため、各地区振興会を訪問して、研修会開催や資料など作成して推進を図りアクセス数が30%程度向上しております。



▲研修会のようす



▲地域のイベントに参加



▲写真展示の協力

2 各地区の大小合わせて90近くのイベントや写真展示に参加して、地域の魅力、課題、資源の活用などのアドバイスをを行いました。

3 天草地域のコミュニティに関する情報サイトとして、「Amakusa ググる」を新たに開設し、天草地域イベント、風景、特産品などの情報を発信。8月末現在、100万件のアクセスがあり、天草Webの駅総合ランク2位となっています。

最後になりますが、天草市地域おこし協力隊として天草各地を訪問し、皆さんと交流することで改めて天草のよさを感じました。隊員としての任期（令和2年10月31日）満了後は、自宅の空き家を利用して、民泊または地域のコミュニティの場として活用できないか企画検討中です。

Amakusa ググる で検索



天草・佐伊津夜話 復刻！

佐伊津地区振興会では、佐伊津弁をとおり佐伊津地域をもっと知ってほしい、ふるさとを知ってほしいとの願いを込めて、30年ぶりに「天草・佐伊津夜話」を復刻されました。元々は、1992年に西法寺の川上慈晃住職が地域特有の方言（佐伊津弁）を交えながら、地域の高齢者から集めた日常の面白い体験談（60話）をまとめた冊子です。今回、復刻にあたっては、佐伊津弁がわかりやすいように標準語訳も併記されています。話の中には、「おり（おれ）」「わり（お前）」「はってかいた（行ってしまった）」「はるけえて（腹たてて、怒って）」など佐伊津弁が盛りだくさんです。

興味のある方は、購入されてみてはいかがでしょうか。

※冊子は、1冊500円で佐伊津地区コミュニティセンター（☎ 284402）にて販売されています。

